

<③商工業者及び観光関係者>



インタビューテーマ

1 大船渡市の強み（自慢できる点、好きな点など）弱み（課題や不安な点など）について

【強み】

- ・豊かな自然環境や住み心地の良い気候が、内陸部や都心と比べても大船渡市の最も大きな強み。
- ・豊かな海や自然。また、人口が少ない分、お互いの顔や名前が分かり合う濃い地域コミュニティが存在すること。
- ・冬は寒すぎず、夏は涼しい、岩手県内でも一番住みやすい土地だと思う。また、海産物や海藻類が美味しい。1・2月の「ドンコ」は最高。
- ・県外の友人が碇石海岸や「穴通磯」を見て10分間立ち尽くして感動するほど、景観がいいと思う。また、海産物に留まらず、地元の飲食店主の料理レベルが非常に高いこと。人の良さも魅力だと思う。
- ・海と山が極めて近く、海釣りや溪流釣りが並立する類稀な手つかずの自然があること。また、震災を乗り越えた「人のたくましさや優しさ」も強み。日本酒、クラフトビール、ワインの「三種の神器」が揃い、洋食や肉を夜遅くまで楽しめるキャッセンの存在は近隣市町からの集客源だと思う。クオリティが高く、SNSでも大反響を呼ぶ「郷土芸能」も魅力。
- ・お節介と言えほど温かい、リピートを促す市民のもてなし力（人情）。また、「温泉総選挙（絶景部門）」5連覇に代表される、目の前に広がる海の絶景、手つかずの自然美。
- ・故郷の和歌山・白浜に似た、海・山・川の揃う素晴らしい自然と食が魅力。また、キャッセンを中心とし、徒歩圏内で買い物や飲み歩きが完結する「コンパクトシティ」として、極めて利便性が高い。お酒好きが多い文化も良いところ。
- ・リアス海岸による大規模・大深度な港湾で、水揚げ場所から市街地が極めて近い地理的構造であること。

【弱み】

- ・内陸部や県内他都市へのアクセスの悪さは、他地域と比較した際の弱み。
- ・全国共通の課題ではあるが、人口減少により今後の商売が成り立たなくなっていくという危機感がある。
- ・「仕入れ品では価格競争が厳しい」ということはまさに地方共通の課題で、ネット販売は、苦肉の策である。やはり店独自の強みを伸ばす必要がある。
- ・首都圏等からのアクセスが非常に悪い。内需（地元市場）が弱まっていくことによる、今後の経営への深刻な影響。
- ・これだけの魅力がありながら、対外的な発信力が非常に弱い。イベント等を「まずはやってみる」という実行力や行動力、また失敗しても続けていく粘り強さが不足している。

- ・地方共通だが給与水準が低い一方で家賃相場が高いため、移住者が定着するための生活セーフティネットが薄い。また、夜行バスの週末限定運行化など、市外へのアクセスが弱体化している。
- ・出生数が20年前の半分以下という凄まじい自然減への不安。また、公共交通機関で大船渡駅まで来ても、基石海岸までのアクセス手段が極めて乏しい。市民が日常の美しさに慣れ、当たり前前価値に気づいていないように感じる。
- ・西日本において「岩手・大船渡」の知名度はほぼゼロで、震災のイメージが強い。また、アクセス手段が複雑で山道が多く、来訪にあたり心理的ハードルが高い。
- ・全国の人や富裕層を惹きつけるレベル（ミシュラン、食べログ100名店等の指標）で評価されるような飲食店がまだなく、発展途上であること。ただ、伸びしろとしては非常に大きいと感じる。

2 まちを良くするために自らが取り組みたいこと

- ・建設業を通じて、安全な街づくりのためのインフラ整備や災害対応へ貢献する。スポーツや健康（エアロビクス）を通じて、若者から高齢者まで運動を続けることができる環境を提供する。
- ・殻に閉じこもらずに積極的な社会貢献活動（消防団活動、お祭りへの1週間以上の参加など）や、夜の懇親等を通じて地域を盛り上げる。
- ・地域の行事、お祭りの担い手として積極的に頑張りを続ける。他地域からの来訪者に地元の魅力やお土産を的確にすすめるようにする。
- ・飲食店の全体会議を月1回開催し、忌憚のない議論を交わしながら、飲食店組合としてのまとまりと団結力を高める。気仙ロックフェスティバルやキャッセンの夜市等を通じて、市民が体感できる場を継続して提供する。
- ・旅行業を通じ、海と山の近さを活かした大船渡ならではの魅力的なツアーを企画、販売して市外から観光客を誘致する。
- ・DMOの活動として、地元の小規模事業者が「もう少しがんばろう」と思えるような民間施策を創出、支援する。
- ・キャビアやアワビといった地元のナンバーワン特産品を使ったメニューを開発し、わざわざ人が来る理由を作る。
- ・大船渡温泉のスタッフ、ひいては大船渡市民全員が「観光大使」として誇りを持って地元の魅力をアピールできる雰囲気を作る。温泉のインターネット投票（温泉総選挙等）で「6連覇」を目指す。
- ・唯一のクラフトビール醸造所としてビールを通じて楽しいまちにし、地元の人と観光客を繋ぐ憩いの場（タッブルーム）をキャッセンで提供する。元病院管理栄養士の経験を活かし、健康教室等で地域貢献を行う。
- ・地域の「公共交通会議」に積極的に参加し、現場の実態に基づいた具体的な提言をしたい。交通ビジョンの改善提案を行っていく。

3 まちを良くするために行政に期待すること

- ・全産業に共通して深刻な人手不足が課題。特に、若者の地元就職者数が激減している建設業界への具体的な若者定着支援をしてほしい。
- ・行政への期待：若者が大船渡へ戻ってくる（Uターン）きっかけとなる、雇用の生まれる大企業の積極的な誘致。
- ・地元での消費を推進し、地域内での経済循環を確立してほしい。地元企業にきちんとお金が落ちる重要性を、市を挙げて強く発信、啓発してほしい。
- ・市民が自ら立ち上げるイベントや取り組みに対する、行政からの強力なサポート。市役所と事業者、市民が直接話し合える対話の場を、今後も継続して設けてほしい。
- ・挑戦する市民をバックアップする体制。空き店舗のチャレンジショップ化や、増え続ける空き家の買い取り・格安貸し出しなどを連動させ、面白い若者が移り住んでくる仕組みを作してほしい。
- ・観光予算の拡充。他市町村の観光パンフレットはあるのに、肝心の大船渡市の観光パンフレットが供給不足によりロビーに置けない現状を解消してほしい。
- ・女性に寄り添った支援の拡充。働き手としての女性（特に子育て後や高年期世代）の活躍支援、及び市内唯一の産婦人科医療体制の不安解消。
- ・幼少期から、郷土愛を醸成するような教育をしてほしい。

- ・行政への期待：花巻空港等の主要ハブと、大船渡や観光地を1日複数本で繋ぐ高速バス等、外からのアクセスの整備。
- ・若者や子ども連れが「移動して楽しい、ここに住みたい」と思えるような、街を明るく照らす楽しい環境の創出。
- ・行政と事業者双方のコストと時間意識の徹底。タクシーチケットの配布要件緩和。実証実験中の「デマンド交通」の運用見直し

4 フリートーク

- ・大船渡温泉は現在、インターネットの温泉総選挙（ホテル総選挙）にエントリーしている。今年は「6連覇」がかかっているため、市民の皆さんや市役所の皆さんにも是非ご協力いただき、『大船渡市全体を元気にする一つのツール』として捉え、盛り上げていきたい。